

# Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ：原因コードの修正

Document ID: 48515

Updated: 2009 年 4 月 21 日

 [PDF のダウンロード](#)

 [印刷](#)

[フィードバック](#)

## 関連製品

- [Cisco SC 2200 シグナリング コントローラ](#)
- [Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ](#)
- [Signaling System 7 \( SS7 \)](#)

## 目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[原因分析](#)

[ITU Q.761 の原因コード変更](#)

[ロケーション コード変更](#)

[関連情報](#)

[Cisco サポート コミュニティ - 特集対話](#)

## [はじめに](#)

このドキュメントでは、コール制御モードとシグナリング モードの両方で動作する Cisco PGW 2200 ソフトスイッチの原因コード分析機能について説明します。PGW 2200 ユーザは、顧客のネットワークに適した値に原因値を変更する必要がある場合があります。PGW 2200 Generic Analysis モジュールは、原因値を新しい原因値とロケーション値の両方に変更できます。

## [前提条件](#)

### [要件](#)

次の項目に関する知識が推奨されます。

- [Cisco メディア ゲートウェイ コントローラ : ソフトウェア リリース 9](#)
- [Q.761 プロトコル マッピング 内部および原因コードとロケーション コード : ソフトウェア リリース 9](#)
- [Cisco メディア ゲートウェイ コントローラ ソフトウェア リリース 9 ダイアル プラン ガイド](#)
- 原因値 ( [ITU Q.850](#) を参照 )
- [debug isdn q931 の接続解除原因コードの理解](#)

## [使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、Cisco PGW 2200 リリース 7.x および 9.x 以降に基づいています。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## [表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

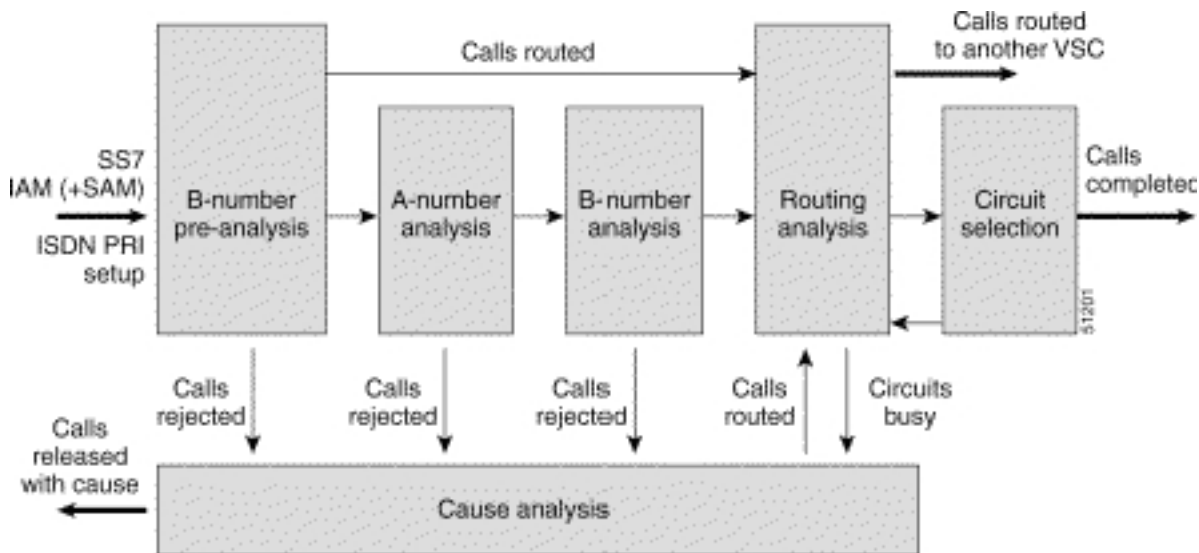
## [原因分析](#)

Cisco PGW によるコールの分析およびルーティングのプロセスを [図 1](#) に示します。このドキュメントでは、原因分析の仕組みについてのみ説明します。

原因分析は、リリース メッセージを受信したときや、コールのリリースが必要であることを暗に示す何らかの種類の障害 ( 番号スクリーンの障害など ) が発生したときに実行されます。原因コード値、または原因コード値とロケーション コード値の組み合わせを使用して、さまざまな結果 ( 別のルートへのコールの再ルーティングなど ) を引き起こす内部原因コードを提供するか、分析に戻って別の宛先を見つけます。

注: プロトコルごとのすべての外部原因値が内部原因値に変換されます。これは、ダイヤル プラン データの入力時に使用される内部値です ( 原因コード マッピングについては、『[付録 B : 原因コードとロケーション コード](#)』を参照 ) 。

図 1 : 分析を介したコール フロー



## ITU Q.761 の原因コード変更

次の手順では、ITU Q.761 の原因コードの変更について説明します。

1. リリース <x> を変更し、原因値 <y> に置き換えるダイヤルプランを追加します。

```
1-numan-add:resultset:custgrpid="0001",name="chgCause"
```

```
2-numan-add:resulttable:custgrpid="0001",name="ChangeToSubAbsent",
resulttype="CAUSE",dw1=<y>,setname="chgCause"
```

```
3-numan-add:cause:custgrpid="0001",causevalue=<x>,setname="chgCause"
```

2. リリース原因分析では、PGW が custgrpid ID の ss7Patch エントリを確認し、ダイヤルプランを調べます。ダイヤルプランではこの設定が行 3 から始まります。
3. この行で、アクションを実行する原因値にトリガーを指定して、行 1 と 2 に移動します。行 2 に、リリース原因 (dw1) の変更後の原因値を指定します。次の例では、リリース原因値 31[internal cause IC\_Normal\_clearing] または 40 [Recover on timer expiry] が変更され、147 (IC\_Unknown) に置き換えられます。

```
PGW2200 mml> prov-sta::srcver="active",dstver="cisco1"
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:20:54
M COMPLD
"PROV-STA"
;
```

```
PGW2200 mml> numan-add:dialplan:custgrpid="0001"
.....This step is only necessary when there is not already a dial plan
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:21:13
M COMPLD
"dialplan"
;
```

```
PGW2200 mml> numan-add:resultset:custgrpid="0001",name="chgCause"
MGC-01 - Media Gateway
Controller 2004-02-12 15:21:38
M COMPLD
"resultset"
;
```

```
PGW2200 mml>
numan-add:resulttable:custgrpid="0001",name="ChangeToSubAbsent",
resulttype="CAUSE",dw1="147",setname="chgCause"
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:22:29
M COMPLD
"resulttable"
```

```

;
PGW2200 mml> numan-add:cause:custgrpId="0001",causevalue=40,
setname="chgCause"
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:22:59
M COMPLD
"cause"
;
PGW2200 mml> numan-add:cause:custgrpId="0001",causevalue=31,
setname="chgCause"
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:23:24
M COMPLD
"cause"
;
PGW2200 mml> prov-cpy
MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:23:31
M COMPLD
"PROV-CPY"
;
PGW2200 mml>

```

4. sigpath またはトランク グループへの custgrpId (ダイヤル プラン名) バインドを確認します。シグナリング (固定) モードの PGW 2200 では、`prov-rtrv:ss7path:name=<ss7-path-name>` コマンドを使用してこれを変更し、CustGrpID 値を検索します。コール制御 (スイッチド) モードの PGW 2200 では、`prov-rtrv:trnkgrp: name=<trunk-group-number>` コマンドを使用してこれを変更し、CustGrpID プロパティを検索します。

## ロケーション コード変更

原因コードに組み込まれて送信された Location パラメータを変更するには、[ClearingLocation](#) と [DefaultLocation](#) を変更します。ClearingLocation と DefaultLocation の /opt/CiscoMGC/etc パラメータで XECfgParm.dat ファイルを見つけます。Cisco PGW 2200 に基づいてロケーションを変更できます。Cisco PGW 2200 リリース 9.3、9.4、9.5、および 9.6 では、コールに基づいてロケーションを変更することはできません。

```

***** DETAIL *****
CIC 50
MESSAGE TYPE 0x0C REL - Release_Msg
INDEX TO VARIABLE PART 0x02
INDEX TO OPTIONAL PART 0x00
CAUSE IND 0x12
LENGTH: 0x02 VAR. DATA 0x82 0x91
EXTENSION BIT 1 diagnostic_is_not_included
CODING STANDARD 0 CCITT_standard
GENERAL LOCATION 2 Public network serving the local user
EXTENSION BIT 1 diagnostic_is_not_included
CLASS 1 Normal event
VALUE IN CLASS 1
CAUSE VALUE 17 User_busy
***** END_OF_MSG *****

```

Cisco PGW 2200 では、「location values」が指定されないため、デフォルトで Location 値に設定されることはありません。その代わりに Cisco PGW 2200 では、値「1010」(インターワーキング ポイント以降のネットワーク [BI]) を持つ一般ロケーションにデフォルト設定されます。これは [ITU Q.850](#) 仕様の一部です。[Cisco HSI については、Cisco Bug ID CSCea28559 \(登録ユーザ専用\)](#) を参照してください。HSI では、原因ロケーションを透過的にすることができます。

注: この設定に関する支援を得るため [テクニカル サポート](#) でケースをオープンする必要がある場合は、SS7 スニファまたはスヌーパトレースと PGW 2200 MDL トレースを組み合わせて実行し

、テクニカル サポート ケースに添付してください。

## **関連情報**

- [Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ テクニカル ノート](#)
- [PGW 2200 の設定例](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

このドキュメントは有用でしたか。 [はい いいえ](#)

フィードバックいただき、ありがとうございました。

[サポート ケースのオープン](#) ( [シスコ サービス契約< ts generic='1' nval='P%1,2%%'が必要ですか](#) )。

## **Cisco サポート コミュニティ - 特集対話**

[Cisco サポート コミュニティ](#)では、フォーラムに参加して情報交換することができます。

このドキュメントで使用されている表記法の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Updated: 2009 年 4 月 21 日

Document ID: 48515